

未来共創チーム会議の議論のまとめ方等について②

Q.未来共創チームのわたしたちが、
25年の構想を考える審議会に何を届けたい？
何を届けるとお役目を果たせたと感じられる!?

- 熟議ができるからこそそのままならない、
深みのある意見やアイデアを届けたい
- 20~30代の切迫した、未来への不安もある
リアルでシビアな肌感覚を届けたい
- トレードオフが生まれる選択の中で
少しでも共感が生まれやすい構想へ
- 今見えているすべての中から意見を出し、考え合いたい
構想と運用をセットに、25年後の出口まで見据え
希望がある

【審議会に届けたいこと】

構想の骨子への

ー違和感

ー見落としているもの（切迫感とリアル）

ープロセスの根拠

をまとめずにお渡しする

例えば『問い』としてお渡ししたり💡

風景でお見せしたり

//ー市民の個人の背景を持った、解像度の高い問いを//
解決でなく「受容」。答えのない問いを受け止めていただき
その上での審議と構想の骨子を

1200年以上続くまちが
持ち続けている問いを

希望と期待
切迫感とリアル

見えたきた景色「京都市民が問い合う」

問い



審議会の方と共に考えたい
違和感や見落としをしているものを問い

▶構想のプロセスが伝わるように

対話受容

スタンス：共創チームとしての全力（けれど執着しない）

届け方アイデア1：問い深める対話

アイデア2：media | 京都構想ラジオ

- ・あらためて未来共創チームの存在理由と応えたいことは？
- ・もっと京都のことについて考える時間

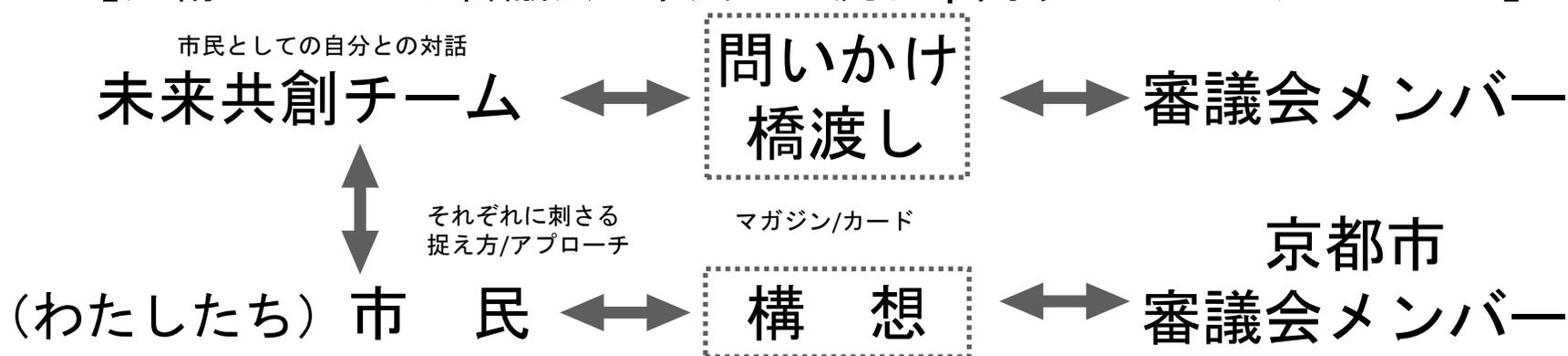
- ・審議会への出し方のすり合わせ
- ・問い合う「テーマ」設定
一人一人のピュアな関心

- ・ダイアログ | テーマを深め、構想を生み出す問いの架け橋
*問いと対話に行き着いた背景は丁寧に説明



-プロセスのデザイン-

【共創チームから審議会⇨市民への流れ | 問うコミュニケーション】



問いかけのアウトプットイメージ



ベストでなく、ベターを選ぶ
それは、誰かが決めた価値観に合わせるまちでなく
「京都である」という意思表示

高い	よりも	程よく
速い	よりも	丁寧に
完成	よりも	未完、終わりがなく
競う	よりも	それぞれに、時に混ざり合い

唯一無二を貫ける状態のバランスを取り続ける

大切にしたいものを大切にできる
完成しない美しさを持つ京都に

そのために、問いを受け止め、考え対話を続けるまちへ
問い合える余裕・余白のある市民へ
(そのための政策・事業、公民連携へ)

京都への些細な問いを持つことから
京都愛がはじまり、京都市民になる